

電子番組案内(EPG)を用いた視聴制限¹

1 Q-7

藤井 亮介

三菱電機(株) 情報技術総合研究所

1. はじめに

デジタル放送、ケーブルテレビなどによる多チャンネル化により、(1)視聴者側からはチャンネル選択方法の改良が求められる。また、(2)放送番組作成側では番組の専門化、細分化による差別化が重要になる。一方、専門化や細分化は、ある種行き過ぎの危険をはらんでおり、極度な性的番組、生々しい映像を売り物にする報道番組/暴力的番組、極端な思想を宣伝する番組など、いわゆる過激番組の登場も想定される。

現在、米国では各番組にレイティング(格付け)情報を付加するなどの措置が未成年者対策として取られているが、緩やかな防止策の域を出ていない。

根本的には未成年者の好奇心をそそることがないようにすることが重要であり、また同時に簡単には過激番組を視聴できないようにする視聴制限手段が必要である。

2. 構成と動作

上記目的に沿った視聴制限を実現するための装置構成を図1に示す。主に再生部分と EPG 選択部分とから構成される。

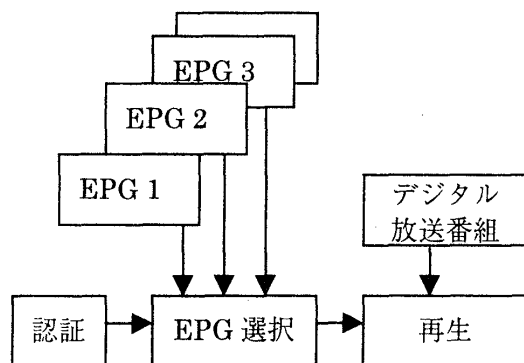


図1. EPGを用いた視聴制限

まず、レベルや嗜好に応じた複数の EPG が存在する。一般的には、これらは映像電波に重畳して送られるものであるが、今後は視聴ニーズの多様化に伴

い、インターネットを介した配信や、雑誌添付といったような形態も考えられる。

デフォルトで一つの過激番組の無い EPG が選択されるが、それ以外のものを選択するためには認証が必要となる。認証方法にはリモコンの数字キーを利用した暗証番号入力などが考えられる。

再生部では選択された EPG の通りに、各番組の再生制御を行う。禁止された過激番組のときは、EPG には放送休止または代替番組が記載され、再生では放送休止表示または代替番組再生が行われる。

3. 特徴

本稿で提案している方式によれば、そもそもの動機である次の特徴2点が実現される。

- (1) 過激番組の未成年者による視聴を制限できる。
- (2) 過激番組を掲載した EPG をみることも制限し、過激番組があることすら知らせないですむので好奇心をそそることもなくなる。

この他に次のような特徴がある。

- (3) 例えば疲れている日には過激な番組を避けた EPG とするといった視聴者の気分に応じた EPG を選択することができる。

4. まとめ

米国ではレイティング情報の有効運用のため V チップ (有害番組視聴制限 IC、V: violence) の搭載義務化⁽ⁱ⁾などの動きがあるがレイティングの客観性については問題があり、複数のレイティングが共存すると考えられる。レイティング情報を含む EPG を多様な供給源から供給または販売すると、レイティングが適正であるかどうかを含めて各 EPG は市場で評価される。複数の EPG を切替える本提案の方式を V チップと併用するとより効果的と考えられる。

参考文献:

- (i) <http://www.fcc.gov/vchip/>

¹ Play Restriction with Electronic Program Guide
Ryousuke Fujii
Information Technology R&D Center, Mitsubishi Electric Corp.